

各関係機関長 殿
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成 18 年度技術情報について

平成 18 年度技術情報第 1 号を発表したので送付します。

平成 18 年度技術情報第 1 号

平成 18 年 9 月 29 日
徳 島 県

1. 病害虫名 トマト黄化葉巻病

トマト黄化葉巻病 (*tomato yellow leaf curl virus*, TYLCV) は、シルバーリーフコナジラミが媒介するウイルス病で、徳島県では昨年 11 月に初発生が確認されました。発病すると上位の花が結実せず、以後の収穫が皆無となり、生産農家に大きな被害を与えるため、厳重な注意が必要です。

定植期に入り、施設栽培トマトにおいては、発生が最も懸念される時期です。感染源であるシルバーリーフコナジラミの防除を徹底するとともに、発病株の早期発見・除去に努めましょう。

2. 病徴と被害

新葉が葉の縁から黄化しながら葉巻症状となり、のちに葉脈間が黄化し縮れた状態になる。さらに進行すると、上位葉が小さくなり、節間が短くなって株全体が萎縮する。発病後は開花しても果実が結実せず収穫できなくなる。

3. 対策

- 1) 本病が疑われる株を見つけたときは、農業支援センターまたは病害虫防除所に連絡する。
- 2) 発生を確認した圃場において、発病が疑われる株を見つけたときは速やかに当該株を除去し、土中に埋めるかビニール袋に密封して枯死させる。
- 3) 定植時にネオニコチノイド系の粒剤を施用するとともに、シルバーリーフコナジラミの発生を認めたら、早急に防除を行う。
- 4) 施設栽培の場合は、0.4mm 目以下の防虫ネットで開口部を被覆し、昇温抑制のため循環扇を設置するとともに、黄色粘着トラップを設置してシルバーリーフコナジラミの早期発見に努め、初期防除を徹底する。
- 5) シルバーリーフコナジラミはマメ科、キク科、ナス科、ウリ科など多くの植物に寄生するので、圃場内及び周辺の雑草を防除、あるいは除去する。
- 6) 薬剤使用にあたっては、最新の登録情報を参照し、適正に防除する。



トマト黄化葉巻病の病徴（頂葉部）



シルバーリーフコナジラミ成虫



シルバーリーフコナジラミ幼虫

参考資料 トマトのコナジラミ類等に対して使用できる農薬（平成18年9月29日現在）

下記の農薬（コナジラミ類、カコナジラミ、シルバーフィコナジラミ、オシツコナジラミで適用のある農薬）は大玉トマトに使用できます。ミニトマトには「ミニトマトへの適用」欄に○のある剤が使用できます。

農薬名	系統	希釈倍数・ 使用量	使用時期・ 使用回数	効果				マルハバチ への影響	ツヤコバチ への影響	ミニトマトへ の適用
				卵	幼	蛹	成			
アドマイヤー顆粒水和剤	ネニコチノイド	5,000～10,000倍	前日・2回		◎		◎	30日	35日	○ 10,000倍
ダントツ水溶剤	ネニコチノイド	2,000～4,000倍	前日・3回		◎		◎	15日以上		○
アクタラ顆粒水溶剤	ネニコチノイド	2,000倍	前日・3回		◎		◎	42日	56日	
バリアード顆粒水和剤	ネニコチノイド	2,000～4,000倍	前日・3回		◎		◎	1日		○ 4,000倍
モスピラン水溶剤	ネニコチノイド	2,000倍	前日・2回	◎	◎		◎	1～3日	24日	○
*ベストガード水溶剤	ネニコチノイド	1,000～2,000倍	前日・3回	◎	◎		◎	10日以上	28日	○
*スタークル・ アルバリン顆粒水溶剤	ネニコチノイド	3,000倍	前日・2回		◎		◎	14日以上		○
チェス水和剤	ピトロジン	3,000倍	前日・3回	×	◎	×	○	1日	0	○
アプロードエースフロアブル	IGR + ダニ	1,000～2,000倍	前日・3回	×	◎	×	×	1日	7日	
カウンター乳剤	IGR	2,000～3,000倍	前日・4回		○					
ラノーテープ	IGR	10～50 ml/10a	1回	◎	×	×	×	0	0	○
*サンマイトフロアブル	ピリタベン	1,000～1,500倍	前日・2回	○	◎	◎	◎	1～4日	21日	
ハチハチ乳剤	その他	1,000～2,000倍	前日・2回	◎	○		○	5日		○ 2,000倍
サンヨール	DBEDC	500倍	前日・4回		○		○	0	0	○
モレスタン水和剤	キノキサリン	1,500～2,000倍	前日・5回		○		○	3～5日	5日	
マイコタール	微生物	1,000倍	初期～		△		△	1日	0	○
プリファード水和剤	微生物	1,000倍	初期～	△	△	△	△	1日	0	○
ボタニガードES	微生物	500倍	初期～		△		△			○
トレボンEW	含ピレ	1,000倍	前日・2回	◎	◎		◎	20日以上	35日	
オレート液剤	脂肪酸	100倍	前日・	◎	○	△	△	1日	0	○
粘着くん液剤	デンプン	100倍	前日・		○	○	○	0	0	
アドマイヤー1粒剤	ネニコチノイド	0.5-1g/株(育苗期 後半) 1～2g/株 (定植時)	育苗期後半 又は定植時 ・1回	◎	◎		◎	30日	30日	○
ダントツ粒剤	ネニコチノイド	1g/株(鉢上時) 1～2g/株 (定植時)	鉢上時又は 定植時 ・1回		◎		◎			○
アクタラ粒剤5	ネニコチノイド	1g/株	育苗期後半 又は定植時 ・1回		◎		◎	21日		
モスピラン粒剤	ネニコチノイド	1g/株	定植時・1 回		◎		◎	10日以上	24日	○
*ベストガード粒剤	ネニコチノイド	5g/培土L(播種 又は鉢上時) 1～2g/株 (定植時)	播種又は鉢 上時又は 定植時 ・1回	◎	◎		◎	30日以上	28日	○
*スタークル・ アルバリン粒剤	ネニコチノイド	1g/株	育苗期又 は定植時・ 1回		◎		◎			○
*スタークル・アルバリ ン顆粒水溶剤	ネニコチノイド	100倍	定植時成型 育苗トレイ 灌注・1回		◎		◎			○
チェス粒剤	ピトロジン	1g/株	育苗期後半 ・1回	×	◎	×	○		0	○

*印：タバココナジラミバイオタイプQに効果のある薬剤。

○微生物農薬（マイコタール、プリファード、ボタニガード）は薬剤抵抗性がかないとされている。

○気門封鎖作用のある農薬（オレート、粘着くん、サンクリスタル、サンヨール）も薬剤抵抗性はつきにくい。

○一般に、成虫に効果があるとされている剤でも幼虫に対しては成虫よりも効果が低くなる傾向がある。

○微生物農薬は、散布後、湿度を保たないと定着しない（ハウスを閉める時期でないとう効果が上がらない）。

○気門封鎖作用（窒息死）のある農薬は、虫の体に十分かからないとう効果が上がらない。